

エイジング社会の教養科目群

科目コード	OG175	科目名	歌が照らす人と社会			科目群	第1群
担当者	佐藤 壮広 (サトウ タケヒロ)						
開講日程・時限	夏期集中8月29日、30日、31日(10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位		
備考	履修人数制限なし						
授業の目標	童謡、唱歌、歌謡曲など流行歌を題材として、それらが照らす時代状況や人模様を考察し、生活における音楽・歌の意義や役割を捉え直し、ヤングからシニアにかけての文化の意味を新たに(再)発見することが、本授業の目標です。						
授業の内容	私たちは、幼少期には童謡、学童期には唱歌、クラシック、青年期には歌謡曲、フォーク、洋楽、やがて演歌など多くの音・歌にふれてきています。音楽は時代状況が反映された文化のひとつであり、それらはまた聴く人びとの心の記憶としても保持されています。授業では多くの歌を一緒に聴き、「記憶の扉」を開け、歌にまつわる社会史・個人史を味わっていきます。						
授業計画	<p>第1日 第1回 歌と社会史：時代の記憶・歌と「メモリースケープ」</p> <p>第2回 歌と時代状況：流行歌、唱歌、童謡</p> <p>第3回 昭和歌謡の歩み：ジャズブーム、望郷歌謡、都会調歌謡</p> <p>第4回 ビートルズ来日とGSブーム、日本のロック</p> <p>第5回 フォーク、ニューミュージック</p> <p>第2日 第6回 メディアと流行歌、アイドル歌謡</p> <p>第7回 J-POPの誕生</p> <p>第8回 女性シンガーソングライターの活躍</p> <p>第9回 シティーポップ(1) グローバルな音楽シーンの受容</p> <p>第10回 シティーポップ(2) リバイバルとしての日本の音楽</p> <p>第3日 第11回 演歌と日本のこころ：北島三郎、八代亜紀ほか</p> <p>第12回 歌から街を読む：東京、横浜、大阪、ご当地ソング</p> <p>第13回 ケアと歌：心身に寄り添う歌のチカラ</p> <p>第14回 講義のまとめ：「私のこの歌」の共有</p>						
成績評価方法	平常点による評価						
講義中に直接使用する教科書							
上記教科書以外の参考図書	<p>北中正和、2003、『増補 にほんのうた 戦後歌謡曲史』、平凡社、1,430円(税込)。</p> <p>田家秀樹、2004、『読むJ-POP 1945-2004』、朝日新聞社、740円(税込)。</p> <p>高護、2011、『歌謡曲 時代を彩った歌たち』、岩波新書、880円(税込)。</p>						
その他(HP等)							